



寺島靖夫 画

総会の開催は断念 活動はすでに出発進行!

今年度（第9期）の通常総会はコロナ禍の影響により昨年に引き続き中止となり、役員全員の同意をもって議案は承認されたこととするという変則的のものになってしまいました。総会は会員全員が顔を合わせる唯一の機会、その席上で新役員の紹介や今年度の具体的な活動、更に来期からの新しい植栽場所などについて、直接議論したかったのですが果たせませんでした。質問や提案などの発言があったはずですが、不完全燃焼のままとなってしまったことが残念です。（寺島靖夫）

今期の主たる活動は来年（令和4年）3月頃計画している「ハナモモ育樹祭」です。養楽荘さんの新しくできた諸施設の斜面へ約70本のハナモモを植える予定です。今期は特に力を入れたい理由があります。それは新設された2か所の施設名に「ハナモモ」という文字が使われたからです。「グループホーム花桃」、「café はなもも」。施設関係者の熱い想いによって命名されたそうです。



(高森台中学の北側道路を挟んで造られた新施設群)



(誰もが利用できる「café はなもも」)

この話を聞いて、私たちは最初驚き、喜びがありました。しかし同時に、関係者の期待に答えるには、ハナモモを植え育て続けることの責任の重さを改めて実感することになりました。もう一つ重要なことがあります。今期限りで県有地での植栽がいったん終了します。現在、県有地の約半分の土地は二つの社会福祉法人によって施設が運営されていて、その外周道路に面した斜面でのハナモモや草木の植栽は今期で全て植栽をし終えるからです。以上二つの状況から今期は今まで以上に力を入れて活動しようと思っています。

視野に入った新しいフィールド



来期からの植栽場所をどこに求めるか、という大きな問題が目前に迫ってきました。一昨年、会の名称を「高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会」に変更しました。これは「高森台県有地」の限定されたエリアからニュータウン全域に活動範囲を拡大し、ゆくゆくは高蔵寺ニュータウンをハナモモの咲き乱れる桃源郷にしようという壮大な計画によるものです。現在、運営委員会で検討されている案は二つ。

一つは県有地に近い位置にある「高森山」までの市道沿線にハナモモを植えて「ハナモモ街道」にしようという計画。もう一つはニュータウン内の主要交差点周りの斜面にハナモモを植えようという計画。この計画は今まで以上に関係部署との交渉や打ち合わせ、協議等が必要で実現までには相当な時間と努力が必要になってくると思われます。しかし、かつて県有地が雑木の生い茂る荒涼たる荒れ地で、その斜面を緑化することによって必ず地域の環境がよくなる、という信念で始まった私たちの活動が今日のような成果を得られたことを思うと、この二つの計画も実現されれば必ずやニュータウンの景観を一新するものと確信しています。いよいよ新しいフィールドが視野に入ってきました。

重労働は、すこしずつプロの力を得て



高森台県有地の斜面は栄養分に乏しく、乾燥して石ころだらけ。そこで保水性のある木質チップの敷設を順次進めてきました。男性メンバーで作業を担った事もあります、かなりの重労働。今年はプロにお任せすることにしました。

場所は「どんぐりの森」駐車場周辺から「どんぐりの家」の道路沿いのり面。地表に小石が浮いてカラカラ、カチカチが著しい一帯です。100本余り植樹したハナモモは3割ほどが枯死してしまい、今年4月7日に植え替えています。つまり一刻も早く土壌改良したかった難所なのです。

作業はいつもお世話になっている「にこにこ造園」さんに依頼し、4月15日から5日間で終了しました。また枯れたように見えながら根元近くに辛うじて葉をつけている弱った木は、上部を切って木の負担を軽くしていただきました。

過去にチップを敷設した斜面ではハナモモが元気に育ち、実績は上々。今回の場所でも効果を発揮して欲しいと祈るばかりです。

その名も【café はなもも】

養楽福祉会の施設群に新規開店!

高森台中学校の北側、道をはさんだ広大な敷地に養楽福祉会さんの新しい施設群が相次いで開所しています。



近日中には地域の人も気軽に立ち寄れるカフェがオープン。店内は天井が高く、大きな窓からは西高森山を正面に望み、四季の変化も楽しめる屋外テーブルもあります。

なにより感激したのは店名の「café はなもも」。ハナモモを地域のイメージと捉えて下さっているのを感じ、身の引き締まる思いです。

6月1日のオープン予定は緊急事態宣言の解除後に延期されましたが、お洒落なカフェでサイフォンコーヒーを片手にくつろぐ日が待ち遠しいですね。

「ヒマワリ里親大作戦」… とはいかなかったけれど

ヒマワリの種をポットに蒔き、多くの方に里親として育ていただき、3週間後に里帰りの苗を花壇に植えるという「ヒマワリ里親大作戦」は、昨年に続き今年も開催を断念しました。それでもやっぱり夏の花壇には大輪のヒマワリを咲かせたい、ということで5月20日メンバーの一部でささやかに種まきをして、それぞれの家に持ち帰りました。



「里親大作戦」は育樹祭り前から行っていて、サポーター募集にも効果的だったので残念ですが、来年コロナ禍が解消されれば再開できるでしょう。そんな前向きな願いをこめて、特大の花を



つけるロシアひまわりの種を培養土に埋めていきました。花壇への定植は6月13日を予定しています。

(上の写真は昨年の定植日の様子)

探しています、三色咲きのハナモモ苗

一本の枝に赤・白・ピンクの花を咲かせる三色咲き(源平咲き)は、際立って美しいハナモモです。ところが業者に注文してもなかなか手に入らず、当会では今まで主に自宅でハナモモを育てているという方から実生の苗木を分けて頂いていました。「花桃の里」がある長野県阿智村でも、販売用に育てている農家さんは絶えてしまったと聞いています。



実は来春の育樹祭でも三色咲きを数本は植えたいと思っておりますが、今のところ入手先が見つからない状態です。手ごろな価格で販売している園芸店を探していますが、皆様の中でもハナモモ苗、特に三色咲きを分けて下さる方をご存じでしたら、お知らせ下さると嬉しいです。

(情報はチームリーダー糟谷まで。090-9899-4499)